

## 集会アピール

私たちは、今日、沖縄、韓国、日本の基地を抱える街に住む住民が岩国に集い、米軍再編がどうなっているのかを学びました。その中で、岩国だけではなく、沖縄、韓国、日本の基地を抱える各地において、米軍再編によって基地が拡張され、その機能が拡大されようとしている現状を学ぶことができました。

6月21日の2プラス2において、グアム移転と普天間移設が遅れることが明らかとなりましたが、その一方で厚木からの空母艦載機部隊の岩国への移駐はロードマップ通りこ押し進められようとしています。しかも、馬毛島をFCLPの恒常施設に選定しようとしており、地元でも反対の声が上がっています。沖縄では、普天間を固定化させてはならない、嘉手納統合案反対の声が上がっており、9月8日にも沖縄防衛局前で集会が行われました。また、日本政府は米軍の指示により、来年10月に欠陥機であるオスプレイを配備することを関係自治体に通告してきており、宜野湾市、沖縄県などからも反対の声があげられています。

韓国においても、済州島に韓国海軍基地が拡張されようとする事に対し、地元住民が阻止行動を続けていますが、警察などの弾圧も激しく、住民団体の代表者が拘束され、世界文化遺産の美しい海がつぶされようとしています。それに対する住民の闘いは続いています。

岩国では、昨年5月29日から新滑走路の運用が始まりました。つまり、新たな基地が米軍に提供されたことを意味しています。さらに日本政府は、海だけではなく愛宕山までも米軍に提供し、米軍住宅及び米軍関連施設にしようとしています。これに対し、愛宕山周辺住民は沖縄・辺野古の闘いに学び、月3回の座り込みを続けるなど反対の行動をとり続けています。

その岩国に沖縄、韓国、日本各地の基地を抱える街の住民が集まり、岩国をはじめとする各地で起こっていることがその場所だけのことでなく、大きな米軍の世界戦略のろつぼの中に置かれていることを改めて確認しました。そして、そこから抜け出すためには在日米軍だけではなく、在韓米軍の再編問題についても、私たちはつながりを強め、共に闘っていくネットワークを構築していかなければならないことを確認しました。

岩国では、住民投票の大勝利から6年が経過しましたが、米軍再編が押し進められようとしており、今が厳しい苦悩の中にあります。だからこそ、私たちの闘いをさらに発展させるためにも、この日の取り組みを活かし、東北アジアの基地を抱える街の住民が共に手を取り合い、連携を強め、共に闘っていくことをここで確認いたします。

2011年9月24日